

ハウスの建設・修繕に伴う高所作業やハウス内での農作業時の安全確認チェックシート

作業を行う前にもう一度確認し、事故を起こさない覚悟をしましょう。

千葉県農業者総合支援センター 作成

高所作業時の安全確認 【1メートルは一命とる】

項目	内容	チェック欄
健康・年齢・技術	体調が悪い時は、高所には上がらない	<input type="checkbox"/>
	高齢者、持病に高血圧がある方は高所での作業に危険性が増すことを考慮する	<input type="checkbox"/>
	危険が伴う作業や専門的な技術が求められる場合は専門業者に依頼する	<input type="checkbox"/>
服装	長袖・長ズボンでポケットや袖が引っかからない作業着を着用する	<input type="checkbox"/>
	滑りにくい靴、手袋、ヘルメットを着用する 必要に応じて安全帯（墜落制止用器具）を着用する	<input type="checkbox"/>
機具	【脚立】 ステップ幅の広いものを用いて、足下の疲れを軽減する	<input type="checkbox"/>
	【脚立】 傾斜がある場合、傾斜に合わせて、脚の長さを変えることが出来る脚立を用意する	<input type="checkbox"/>
	【脚立】 それぞれ作業に適した高さの脚立を用意する	<input type="checkbox"/>
環境	雨・強風の時は作業しない	<input type="checkbox"/>
	一人では作業しない（やむなく一人で作業する場合は携帯電話を携帯すること）	<input type="checkbox"/>
	周囲に、登り降りの邪魔になったり、転倒したときに危険な側溝や、崖・石・木の枝などが無い	<input type="checkbox"/>
	【ハウス骨組み】 足場とする資材が錆などで劣化していないか確認する（劣化を確認した場合は交換・補修を行う） 【脚立】 安定して設置できる広さがある	<input type="checkbox"/>
機具の設置	【脚立・はしご】 脚元が不安定になる場所では、人に支えてもらう	<input type="checkbox"/>
	【脚立】 開脚防止用チェーンを必ずかける（短い場合は長さを延長する）	<input type="checkbox"/>
	【はしご】 上部がずれないように、ロープなどで固定する	<input type="checkbox"/>
	【はしご】 底部が滑らないか確認する	<input type="checkbox"/>
作業中	足元に体重をかける前に、足場の安全性を確認する	<input type="checkbox"/>
	【脚立】 登りはじめるときは、体全体で最下段に乗って踏み込み、安定に設置する	<input type="checkbox"/>
	【脚立・はしご】 昇降時には重い物を持たず、荷物は紐などで吊るして上げ下げする	<input type="checkbox"/>
	【脚立】 天板ののって作業せず、高さに応じた脚立を使う	<input type="checkbox"/>
	【脚立】 身を乗り出して作業せず、直上で作業できるように、こまめに移動する	<input type="checkbox"/>
	無理をせず、慌てず、落ち着いて作業する	<input type="checkbox"/>
	こまめに休憩、水分補給する	<input type="checkbox"/>

脚立（三脚）使用の5つのポイント

天板に乗らない 身を乗り出さない 昇降時に物を持たない 設置時にトントンと脚を踏み込む 開脚防止チェーンを掛ける



※ イラストは 平成26年度農水省補助事業「農作業事故の対面調査」（一般社団法人・日本農村医学会）より引用



参考（YouTube動画）
ここがポイント農作業事故防止
脚立の事故と事故防止のポイント
（一社 日本農村医学会）



参考
はしごや脚立からの
墜落・転落災害を
なくしましょう！
（厚生労働省等）

ハウス内での耕耘機の作業

ハウス内での耕耘機の運転では、以下のような危険があります。

- 1 バック運転の際に後方を確認せず、耕耘機と支柱や妻面に挟まれてしまう。
 - 2 ターンする際に、耕耘機のハンドルと支柱等に身体の一部が挟まれてしまう。
- 体が挟まれて、身動きがとれなくなると機械を停止できなくなるので、



※ イラストは
平成26年度農水省補助事業「農作業事故の対面調査」
（一般社団法人・日本農村医学会）より引用

【安全確認】

内容	チェック欄
バック運転の際は、後方を確認し、妻面（端）ギリギリまではバックしない	<input type="checkbox"/>
ターンする際は、支柱などから十分に距離をとる	<input type="checkbox"/>
一人で作業しない	<input type="checkbox"/>



参考（YouTube動画）
ここがポイント農作業事故防止
耕耘機の事故事例
（一社 日本農村医学会）

熱中症にならないために

項目	内容	チェック欄
健康・年齢	体調が悪い時や疲労を感じている時は高温時の作業はしない	<input type="checkbox"/>
	70歳以上は気温の上昇を感じづらいため、高温時の作業は避ける	<input type="checkbox"/>
	身体が暑さに慣れていないうちは無理せず慎重に、少しずつ作業する	<input type="checkbox"/>
服装	帽子、吸汗速乾性素材の衣服を着用する	<input type="checkbox"/>
環境	日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う	<input type="checkbox"/>
	暑さ指数を確認する	<input type="checkbox"/>
	ビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用する	<input type="checkbox"/>
	作業前にコップ1～2杯以上の食塩水（水1Lに食塩1～2g）やスポーツ飲料を摂取する	<input type="checkbox"/>
機具の設置	屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用する	<input type="checkbox"/>
作業中	作業は2人以上で行い、定期的に異常がないか確認し合う	<input type="checkbox"/>
	20分おきに、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱いで手足を露出し、体温を下げる	<input type="checkbox"/>
	休憩時にはコップ1～2杯以上の食塩水やスポーツ飲料を摂取する	<input type="checkbox"/>

暑さ指数は、熱中症のなりやすさを示している指標で、単位は「℃」ですが、気温とは異なり、人体と外気との熱のやりとりの指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい「①気温、②湿度、③輻射熱」の3つの要素を組み合わせたものです。環境省から情報が発信されますが、作業環境によって異なるので注意しましょう。



参考
熱中症対策BOOK
（環境省）

温度基準域（暑さ指数）	(参考) 気温	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	35℃以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃※1)	31～35℃		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃※1)	28～31℃	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。
注意 (25℃未満)	21～25℃	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※1 (28～31℃) 及び (25～28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。

※2 日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」（2013）を参考